

# 2022 年度 事業計画書

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月 31日

公益財団法人日本ゲートボール連合

## 2022 年度事業計画

### I. 事業方針

2019 年度から愛好者のすそ野を広げ斯界の組織活性化を推進するため、「大学スポーツへの展開」、「指導方法やカリキュラムの作成による小学生への普及」など新たな領域の開拓や、「都道府県ゲートボール組織（加盟団体）の強化」を重点項目とした「ゲートボール再生プロジェクト」を推進している。大学スポーツへの展開は 23 大学での活動がスタートし、様々な成果を上げてきた。

また、ニューゲートボールに向けた研究・調査、ゲートボールのデジタル化開発、加盟団体への ICT（情報通信技術）環境整備や再生事業助成など、従来には無かった新規事業を開始してきた。

本年度は、これまで推進してきた再生プロジェクトを検証・評価し、あわせて費用対効果を十分考慮し、新たな可能性や展開を見出すべく、柔軟な姿勢で事業を行っていく。本連合は、外部機関の意見を積極的に取り入れながら新しい分野に取り組み、ゲートボールの更なる可能性を模索する。

本連合は、多様性への共生として、草創期から障がい者の積極的な参加を企画してきた。誰もがスポーツに参画できるような機会の創出・機運醸成に引き続き取り組み、ゲートボールを通じて地域社会の活性化に向けた事業を促進する。

近年、スポーツ界も様々な課題に直面し、管理運営の効率化が必要となっている。インターネットや SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などのデジタルツールを積極的に活用し、わかりやすい伝達方法で幅広い世代の人や地域のゲートボール組織の方々と情報を共有し、より一層連携・協力を緊密にしてゆく。参加が容易なルール作りや若い世代が好むインターネットによるゲートボールゲームなど誰もが楽しめる「ゲートボールの未来像」を創設する施策を構築してゆく。

ゲートボールは、心と身体の健康に寄与する世代間コミュニケーションスポーツであり、本連合は「全世代の多様な人々が、様々な形で参加できるスポーツとしてのゲートボール」を目指す。

なお、日本ゲートボール連合の主たる事業は、日本財団を通じたボートレースの貴重な収益金からの助成をはじめ、日本スポーツ振興センターやスポーツ安全協会等から支援をいただいて実施（一部申請中）する予定であり、常に経費の見直しを図りながら、これらの資金を有効・適切に活用し、一層の効率的かつ積極的な事業運営を行います。

## II. 事業【公益目的事業】

### 1. ゲートボール再生プロジェクト

1) 新たなゲートボールファン拡大に向けた普及活動の創出〔日本財団助成事業〕  
再生プロジェクトにおける目標（次頁参照）に向け、2019年度より開始した各事業の成長と継続した新規開拓による拡充を図り、更なる具現化を目指す。また、新たな可能性や展開を見出した際は、実現性や重要性等を考慮しつつ、柔軟かつ即効的に挑戦し、適宜、再生プランの見直し、修正による充実を図る。

- (1) 大学スポーツとしての普及
- (2) 小学校低学年・未就学児向け教育プログラムの開発
- (3) 地域特性に応じた普及活動モデルの創出
- (4) ゲームバリエーション（キャンパススポーツ）の研究
- (5) デジタルコンテンツの活用

### 2) 組織強化〔日本財団助成事業〕

新たなゲートボール普及と新規愛好者獲得に向け、加盟団体の実情に沿って企画立案された再生事業への支援を行うとともに、再生事業への更なる集中実施ができるよう、オンライン化による事務局業務や経費の削減等、あらゆる面での立て直しを図る。一方、都道府県の枠にとらわれず、地域特性などを組み入れた多様な新組織としての再編も視野に入れて取り組んでいく。

- (1) 基盤強化、人材育成、ICT環境の整備、マネジメント支援等
  - ▶地方組織再生助成事業の実施
  - ▶再生プロジェクト全国会議の実施
- (2) 地域再生モデルの推進

## ■ 2022 年度再生プロジェクト

### 1) 大学スポーツとしての普及

ゲートボールを大学のサークルや体育授業などに導入し、継続的サポートを行いながら、「大学スポーツ」としての定着を目指す。

### 2) 小学生・未就学児への普及

「8～12歳までのスポーツ経験が、その後の人生におけるスポーツ活動に大きく影響を与える」との学術研究を踏まえ、幼少期から学童期の体験が重要であると考え、普及の基礎づくりとなる小学生・未就学児への普及アプローチの再生を目指す。2019年度から開始した筑波大学との共同研究を主に、学校教育におけるゲートボールの教材開発を推進する。

### 3) 地域特性に応じた普及活動モデルの創出

ルール・審判実務の簡易化のほか、ファッション性の向上による（する・見られる）楽しさの追求等、ライトユーザー向けのニューゲートボールを創出し、多種多様な楽しみ方ができるゲートボールとして、地域密着型スポーツの構築を目指す。

### 4) ゲームバリエーション（キャンプスポーツ）の研究

若い世代との接点やSNS等による強い情報発信力を有する「アウトドアで楽しむキャンプスポーツ」として、ゲーム性・用具やファッション・演出など、新たな目線でのスポーツを目指す。

### 5) デジタルコンテンツの活用

ゲームアプリ、動画配信、「LINE アカウント」等、多様な情報発信を積極的に活用し、新しいゲートボールへの理解や関心を高める。

## 2. 普及および振興

### 1) 学校スポーツとしての育成

- (1) 全国高等学校ゲートボール選手権大会〔スポーツ安全協会助成 申請中〕  
▶開催地・期日等は別表1参照。
- (2) 全国ユースゲートボール連盟への活動支援

### 2) 日本発祥スポーツとしての海外普及〔日本財団助成事業〕

- (1) 指導者や審判員等の海外派遣
- (2) ゲートボール用具や刊行物等の寄贈

## 3. 全日本選手権大会およびその他の競技会の開催

### 1) 全国大会の開催

- (1) 全日本ゲートボール選手権大会〔スポーツ振興基金助成 申請中〕
- (2) 全国選抜ゲートボール大会〔日本財団助成事業〕
- (3) 全日本世代交流ゲートボール大会〔日本財団助成事業〕
- (4) 全国ジュニアゲートボール大会〔日本財団助成事業〕
- (5) 全国社会人ゲートボール大会〔日本財団助成事業〕  
▶開催地・期日等は別表1参照。

### 2) 地域選手権大会の主催と都道府県大会への開催支援

- (1) 地域ゲートボール選手権大会（ジュニア、ミドル、スーパーシニア含む）
- (2) 都道府県ゲートボール大会（日本連合主催全国大会の都道府県予選会）

## 4. 国民体育大会の実施

- (1) 第77回国民体育大会（公開競技）  
▶開催地・期日等は別表1参照。
- (2) 国民体育大会予選会（10地域）の開催支援
- (3) 2023年度以降の国民体育大会の開催準備  
※2024年度より国民スポーツ大会（国スポ）へと名称変更
- (4) 2028年度以降（第4期）の国民スポーツ大会における正式競技化を目指し手続きを進める

### 【参考】

#### <第2期>

#### <第3期>

#### <第4期>

年	開催地	年	開催地	年	開催地
2019年	茨城県行方市	2024年	佐賀県	2028年	長野県（予定）
2020年	鹿児島県 ※延期	2025年	滋賀県	2029年	群馬県（予定）
2021年	三重県 ※中止	2026年	青森県	2030年	島根県（予定）
2022年	栃木県那珂川町	2027年	宮崎県	2031年	奈良県（予定）
2023年	鹿児島県指宿市				

## 5. 国際的競技会の開催準備と代表チームの選考および派遣、ならびに外国チームの招聘

- (1) 第8回アジアゲートボール選手権大会の開催準備  
▶開催地・期日等は別表1参照。
- (2) 国際大会・交流会等への日本チームの派遣〔日本財団助成事業〕
- (3) ワールドマスターズゲームズ関西の開催準備（期日未定）

## 6. 競技規則に関すること

見直しが予定されている「世界ゲートボール連合：国際公式競技規則」に対して検討内容を世界連合に提言するとともに、改正が施行となった場合は、日本の公式競技規則も準拠することとし、すみやかに移行できる整備を行う。

## 7. 指導者の養成

- (1) 指導者研修会の実施〔日本財団助成事業〕
- (2) JSP0 公認ゲートボール指導者（コーチ1）の養成

### 【特記】

JSP0 と各スポーツ中央競技団体が一体となって、統一された理念と一貫した養成システムによって実施される協同認定事業「JSP0 公認スポーツ指導者制度」の段階的な全面改正に合わせ、日本連合が担う専門科目の実施内容（カリキュラム、教本、料金等）の見直し、改正を進める。改正移行期間は2023年3月末まで。

## 8. 審判員の養成および認定

- (1) 審判員資格の試験、登録、ならびに登録更新の実施  
▶ジュニア・ユース世代への資格取得促進（登録料免除）の継続
- (2) 国際審判員資格の試験、登録、ならびに登録更新の実施
- (3) 全国大会等の開催地での審判研修会の実施〔日本財団助成事業〕

## 9. ゲートボール器具・用具の研究開発および認定

- (1) 安全検査に合格したスティックやボールに関する認定制度の実施

### 【特記】

認定に対する有効期限制の導入。

## 10. ゲートボールに関する刊行物の発行

- (1) 書籍「競技規則・審判実施要領」、「ルール解説 Q&A」等の発行  
▶国際公式競技規則の改正となった場合には、各種刊行物等の見直しを行い、正確な伝達とすみやかな施行への整備を図る。
- (2) 「ゲートボール Navi 2022」の作成配布〔スポーツ振興くじ助成 申請中〕  
▶2023年3月頃：42,000部予定

## 11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

### 1) 功労者等の表彰

- (1) ゲートボール功労賞（被表彰者は各団体1名）
- (2) 健康功労賞（各団体1名～8名とし、200名を基準とした比例配分）
- (3) 審判員功労賞（各団体最低1名とし、100名を基準とした比例配分）

### 2) 全国健康福祉祭（ねんりんピック）のほか、官公庁・自治体等の公的機関および関連団体が開催する各種ゲートボール大会への後援協力等

### 3) ゲートボール活動における事故予防・防止に向けた啓発活動等

- (1) ゲートボール活動中（競技会や講習会等）における事故状況の収集と予防・防止に向けた啓発への取組み
- (2) 見舞金の対応

### 4) アンチ・ドーピング教育・啓発活動（日本アンチ・ドーピング機構へ申請中）

- (1) 全日本選手権大会出場選手への関連資料の配布およびeラーニング受講への取組み
- (2) アンチ・ドーピング研修会は、競技会（国体）における感染症対策に注力するため、今年度は実施しない。
- (3) アウトリーチプログラム（参加型普及啓蒙活動）は、競技会（ジュニア・社会人）における感染症対策に注力するため、今年度は実施しない。
- (4) 日本連合主催全国大会における競技プログラム等への理念広告の掲載
- (5) 日本連合主催全国大会における横断幕の掲示

### 5) 広報

- (1) ウェブサイト及び公式SNS等の充実
- (2) 加盟団体による情報発信への支援

### 6) その他

- (1) 会員データシステム（オンライン）の整備
- (2) 寄付金・賛助金および協賛企業等の募集強化
- (3) スポーツ団体ガバナンスコード＜NF向け＞への対応  
スポーツ団体が適切な組織運営を行うための原則・規範としての「スポーツ団体ガバナンスコード（2019年、スポーツ庁策定）」の実効的な運用に向けた整備をすすめる。  
▶ガバナンスコード適合状況についての自己説明と公表の実施（年1回）  
▶適合性審査への対応  
▶加盟団体に対するガバナンスコードへの対応
- (4) 定時評議員会、理事会、その他必要に応じた各種会議の開催  
▶任期満了に伴う「理事・監事」の選任
- (5) 国際ゲートボール組織（世界・アジア）の事務局業務の受託

【別表 1】2022 年度 日本連合主催全国大会等

(1)	文部科学大臣杯 第 38 回 全日本ゲートボール選手権大会	スポーツ振興基金助成 申請中	
	福井県鯖江市	2022 年 10 月 15 日 (土)・16 日 (日)	48 チーム
(2)	第 37 回 全国選抜ゲートボール大会	日本財団助成事業	
	山梨県甲府市	2022 年 6 月 18 日 (土)・19 日 (日)	96 チーム
(3)	内閣総理大臣杯 第 39 回 全日本世代交流ゲートボール大会	日本財団助成事業	
	島根県出雲市	2022 年 9 月 18 日 (日)・19 日 (月) 祝	48 チーム
(4)	第 27 回 全国ジュニアゲートボール大会	日本財団助成事業	
	埼玉県熊谷市	2022 年 8 月 6 日 (土)・7 日 (日)	144 チーム
(5)	第 21 回 全国社会人ゲートボール大会	日本財団助成事業	
	埼玉県熊谷市	2022 年 8 月 6 日 (土)・7 日 (日)	48 チーム
(6)	第 11 回 全国高等学校ゲートボール選手権大会 * 3 人制 (リレーシヨーン 3) による実施	スポーツ安全協会助成 申請中	
	愛媛県西条市	2022 年 12 月 17 日 (土)	12 校程度
(7)	第 77 回 国民体育大会 [公開競技] いちご一会とちぎ国体	-----	
	栃木県那珂川町	2022 年 9 月 3 日 (土)・4 日 (日)	32 チーム

< 国際大会 >

(8)	第 13 回世界ゲートボール選手権大会	-----	
	開催地：未定	2022 年開催予定が、2026 年開催へと延期	
	世界連合加盟国および普及国・地域から選ばれた 64 チーム		
(9)	第 8 回 アジアゲートボール選手権大会	-----	
	中華人民共和国	2020 年開催予定が (2021 年へ延期となり、) 2024 年開催へと再延期	
	アジア連合加盟団体およびアジア地域の普及国・地域から選ばれた 64 チーム		